

主要産地における令和5年産水稻の生育状況等について 第10報 (令和5年7月27日取り纏め)

作成：公益社団法人穀安定供給確保支援機構情報部 (令和5年7月27日)

道府県	生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋)		技術・防除・気象情報関連資料 (自治体・気象台等公表資料の抜粋)	令和5年度の品種構成の概況
	区分	平年、指標等に対する遅速等		
北海道	(生育)	<p>【生育状況 (7月15日現在)】</p> <p>(全道) 生育は平年よりやや早く進んでいる。(北海道農政局 7月21日付)</p> <p>(空知) 生育はやや早く進んでいる。(空知総合振興局 7月21日付)</p> <p>(石狩) 生育はやや早く進んでいる。(石狩振興局 7月21日付)</p> <p>(後志) 生育は早4日。(後志総合振興局 7月21日付)</p> <p>(胆振) 7月上旬旬気温で遅進したため生育が遅い。生育は平年より早い。(胆振総合振興局 7月21日付)</p> <p>(日高) 気温が高く推移し、生育は順調である。(日高振興局 7月21日付)</p> <p>(釧路) 生育は平年より早く進んでいる。(釧路総合振興局 7月21日付)</p> <p>(十勝) 生育は平年より早く進んでいる。(十勝総合振興局 7月21日付)</p> <p>(オホshima) 生育は平年より早く進んでいる。(オホshima総合振興局 7月21日付)</p>	<p>(全国) 春からエルニニョ現象が続いているとみられる。今後、秋にかけてエルニニョ現象が弱く可能性が高い(90%)。(気象庁 7月10日付)</p> <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 北海道地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並み多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北海道地方の向こう3か月の平均気温は平年並み高い見込み。降水量は平年並み多い見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>北海道地方は7月30日頃からかなりの高温。(札幌管区気象台)</p> <p>向こう1か月のいもち病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「なつぽし」及び「ゆめぴりか」を中心とする品種構成となっており、主産品種に大きな変化はみられない。(農林水産省 令和5年3月15日)</p> <p>(出典資料は以下同じ)</p>
青森	(生育)	<p>【県生育観測所の生育状況】(7月14日現在)</p> <p>・草丈は平年と比較してかなり長く、m当たり茎数は「つがるロマン」はかなり多く、「まっしぐら」はかなり少なくなっている。</p> <p>・幼穂形成期は、平年と比較して、「つがるロマン」が7月10日で3日早く、「まっしぐら」が7月6日で4日早くなっている。</p> <p>・7月17日以降の気温が平年並に推移した場合、出穂期は「まっしぐら」が7月26日頃から、「つがるロマン」が7月28日頃からと予想される。</p> <p>(青森県 7月21日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並み高い見込み。降水量は平年並み多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は7月30日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月のいもち病、ニカメイガ、斑点米カメムシ、乾枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「まっしぐら」及び「つがるロマン」を中心とする品種構成となっている。</p>
岩手	(生育)	<p>【7月25日現在】生育観測「ひとめぼれ」「あきたこまち」「銀河のしずく」「いわてっこ」</p> <p>・草丈は、平年並～長い(平年並+1.2～+9.0cm)。</p> <p>・茎数は、平年並～多い(平年並+10～+124%)</p> <p>・葉数は、ほぼ平年並(平年並-0.1～+0.3葉)。</p> <p>・葉色(SPAD値)は、平年並～低い(平年並-2.3～+0.5)。</p> <p>・各品種とも概ね平年並に減数分裂期に達している。</p> <p>(岩手県農業研究センター 7月26日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並み高い見込み。降水量は平年並み多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は7月30日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月のいもち病、ニカメイガ、斑点米カメムシ、乾枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。農オシジナル品種である「銀河のしずく」が、新冷性、耐病性に優れていることから増加傾向となっている。</p>
宮城	(生育)	<p>(大河原) 高温・多湿で推移し、稲の生育が進んでおり、出穂期は平年より早い(南部平野は7月26日頃から出穂)。(宮城県大河原農業改良普及センター 7月25日付)</p> <p>(亶理) 7月20日調査の幼穂長は、「ひとめぼれ」が32.6mm、「だて正夢」が110.5mmで、減数分裂始期～終期に達している。「金のいぶき」は幼穂長14.5mmで最も減数分裂期に入っている見込み。「つきあかり」は幼穂長201.4mm、葉耳間長6.2cmで出穂5日前に達している。(宮城県亶理農業改良普及センター 7月21日付)</p> <p>(仙台) (移植栽培「ひとめぼれ」) 草丈の管内平均値は77.7cmで概ね平年並。茎数は422本/mで平年より1～2割程度少ない状況。葉色(SPAD値)は32.5で、減数分裂期の目安より小さい値。幼穂長は37.8mmで、前年及び平年より進んでおり、既に減数分裂期に達している。減数分裂期は管内平均で7月15日頃に入るとみられ、前年より6日早い状況。(宮城県仙台農業改良普及センター 7月21日付)</p> <p>(奥) 草丈は「だて正夢」を除き平年より長い。葉色：平年より深い場所が多い。葉数：平年より少ない。茎数：「ひとめぼれ」を除き少ない。幼穂長：すべての場所で平年より進んでいる。(宮城県奥州農業改良普及センター 7月21日付)</p> <p>(栗原) 今後の天候が平年並で経過すると「ひとめぼれ(北部平野部(栗原))」の出穂期は7月31日～8月6日頃と推測される。(宮城県栗原農業改良普及センター 7月24日付)</p> <p>(石巻) 減数分裂期は7月13～18日頃、草丈は長く、茎数はやや少ない。出穂は平年より6日早まる見込み。(宮城県石巻農業改良普及センター 7月24日付)</p> <p>(気仙沼) 幼穂の形成は6日以降の高温傾向で早まっており、本宮、志津川ではすでに減数分裂期を迎えた。生育の早い品種は今月中に出穂が見込まれる。幼穂長は平年。前年を上回っている。今後の高温傾向を踏まえて、生育調査田における本年の出穂は平年より早まる見込み。(宮城県気仙沼農業改良普及センター 7月21日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並み高い見込み。降水量は平年並み多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は7月30日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月のいもち病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。</p>
秋田	(生育)	<p>(雄物) 多くの場所で幼穂形成となり、田植えが早かった場所ではまもなく減数分裂を迎える。(7月21日付)</p> <p>(北秋田) 多くの場所で幼穂形成期に入っている。(7月14日付)</p> <p>(仙北) 7月14日の定点調査結果では、草丈はやや長く、茎数は回復傾向ですがやや少なくなった。葉色はやや多く、多くの地点で幼穂が確認されている。(7月14日付)</p> <p>(山本) 田植えが早かった場所では幼穂形成期を迎えている。(7月14日付)</p> <p>(秋田) (7月5日調査) 「あきたこまち」の生育は草丈が63.4cm(平年比108%)、茎数が494本/m²(同比102%)、葉数が11.5葉(同比+1.1葉)、SPADが42.2(同比102%)となっている。(7月14日付)</p> <p>(秋田県農林政策課)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並み高い見込み。降水量は平年並み多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は7月30日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月のいもち病、ニカメイガ、斑点米カメムシ、乾枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。</p>
山形	(生育)	<p>【7月20日現在】</p> <p>・「はえぬき」の生育は、平年と比較して、草丈は並み、茎数はやや少なく、葉数及び葉色は並みとなっている。</p> <p>・「つや姫」の生育は、平年と比較して、草丈はやや長く、茎数及び葉数は並み、葉色はやや少なくなっている。</p> <p>・「雪若丸」の生育は、平年と比較して、草丈はやや長く、茎数、葉数、葉色は並みとなっている。</p> <p>・出穂期は、やや早い見込み。</p> <p>(山形県 7月25日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並み高い見込み。降水量は平年並み多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は7月30日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月のいもち病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「はえぬき」及び「つや姫」を中心とする品種構成となっている。新冷性「雪若丸」は増加傾向にある。</p>
福島	(生育)	<p>(農業総合センターの作柄解析試験における7月4日現在の生育観測)</p> <p>・全ての調査場所で品種「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」、「天のつぶ」ともに、草丈が平年より長く、茎数が平年並りやや多く、主幹葉数が平年より0.1～0.4枚多く、葉色が平年並。</p> <p>(福島県農林水産部農業振興課 7月10日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は平年並み高い見込み。降水量は平年並み多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は7月30日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月のいもち病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。近年、収量水準の高い「天のつぶ」が増加しており、新冷米への転換が進んでいる。また、底上げしたものの、まだ増加が見込まれる。</p>
茨城	(生育)	<p>【7月20日現在、水戸市】</p> <p>(5月1日移植)</p> <p>・出穂期は、「あきたこまち」が7月13日で平年より3日早く、「ふくまるSL」が7月16日で平年より2日早く、「コシヒカリ」が7月23日で平年より4日早かった。</p> <p>(5月10日移植) 「コシヒカリ」7月20日における主幹幼穂長は160.3mmで、幼穂長から予測される出穂期は7月29日である。</p> <p>(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月25日付)</p> <p>【7月18日現在、龍ヶ崎市の対平年遅速】</p> <p>(4月27日移植)</p> <p>・「あきたこまち」1日早い(出穂期)、「ふくまるSL」3日早い(出穂期)、「コシヒカリ」6日早い(出穂期)。</p> <p>(5月8日移植) 「コシヒカリ」平年並</p> <p>(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月19日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並み多い見込み。(気象庁)</p> <p>関東甲信地方は7月30日頃からかなりの高温。(気象庁)</p> <p>向こう1か月のニカメイガ、繭葉枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成で、近年、多様な多収米への作付け移行が進んでいる。</p>
栃木	(生育)	<p>【生育観測】(7月20日調査)</p> <p>・草丈は出穂している影響もあるが前年より高い。</p> <p>・主幹コシヒカリの茎数は多いところと少ないところがあるが全体的にはやや少ない。</p> <p>・葉数と主幹の葉数はやや少ない。</p> <p>・葉色は前年並～やや少く、生育量(生育診断値)は前年を下回っている。</p> <p>・各地とも出穂が近づいている。農試では1988年以降最も早い出穂となる見込み</p> <p>【コシヒカリ：前年比】草丈105% 茎数98% 葉色±0.0</p> <p>【ちちのぞ：前年比】草丈101% 茎数95% 葉色-0.5</p> <p>【普通稲とちちのぞ】5月播 草丈100% 茎数104% 葉数+0.4 葉色-1.2</p> <p>6月播 草丈 83% 茎数102% 葉数+0.6 葉色+0.3</p> <p>(栃木県農政課経営技術課 7月21日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並。日照時間は平年並み多い見込み。(気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並み多い見込み。(気象庁)</p> <p>関東甲信地方は7月30日頃からかなりの高温。(気象庁)</p> <p>向こう1か月のニカメイガ、繭葉枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「ちちのぞ」が増加傾向にある。</p>

<p>千 葉</p> <p>(生育状況等)</p> <p>(生育)</p> <p>・7月は平年より気温が高く、日照時間が長い状況で推移した。このため、幼穂形成から出穂期までの日数が短くなり、「ふさおとめ」「ふさこがね」は平年より早く、「コンヒカリ」「新すけ」は約4日早く出穂期を迎えている。なお、「ふさおとめ」は穂数がやや少なめで穂長がやや長めとなっている。いずれの品種も、出穂期の高温は平年並かやや高くなっている。</p> <p>・成熟期は4月20日現在の「ふさおとめ」が8月9日から、「ふさこがね」が8月14日から、「コンヒカリ」「新すけ」は8月20日から予測される。なお、落葉期も高温が低下したり水が不足した場合は成熟期が早まる可能性がある。</p> <p>(千葉県 7月26日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の経過】 7月29日～8月28日 関東甲信越地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し】 8月～10月 関東甲信越地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁)</p> <p>関東甲信越地方は7月30日頃からかなりの高温。 (気象庁)</p> <p>向こう1か月稲葉枯病、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コンヒカリ」及び「ふさこがね」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成となっている。令和2年度から新品種「新すけ」の本格栽培が開始</p>
<p>新 潟</p> <p>(生育)</p> <p>(7月25日現在) 県内全域の生育状況</p> <p>・「コンヒカリ」の葉色は、黒全体では指標値(生育のめやす)に比べ「並」の状況。地域差、ほ場間差が大きくなっている。</p> <p>・「新之助」の葉色は、指標値に比べ「並」だが、地域差が大きいため。</p> <p>・「こいしんき」指標値に比べ、葉色は「並」の状況。出穂期は平年並の7月27日の見込み。 (新潟県農林水産部 7月26日付)</p> <p>(新潟田「コンヒカリ」)</p> <p>・草丈：81cm(指標値107%、やや長い)、茎数：399本/m²(同100%、並)、葉色：32.8(葉緑素計)(指標値-0.2、並) 葉数：12.0葉(同0.37葉、並)(新潟県農業普及指導センター 7月20日付)</p> <p>(三 条「コンヒカリ」)</p> <p>・出穂期は19日と予想(5月5日移植の場合)、しばしば高温が続く傾向であり、出穂期は全品種で平年より2日程度早まると思われる。 (三条農業普及指導センター 7月25日付)</p> <p>(島 田「コンヒカリ」)</p> <p>・高温で推移したため、出穂期は平年より3日早まる(5月20日田植えの場合、8月2日出穂期)と予想されている。(新潟県農業普及指導センター 7月25日付)</p> <p>(西魚沼「コンヒカリ」)</p> <p>・出穂期は、雨明け後の高温により平年よりやや早まる見込み。(新潟県農業普及指導センター 7月26日付)</p> <p>(十日町)</p> <p>・幼穂調査の結果から、「コンヒカリ」「新之助」の出穂期は平年並の見込み。(十日町農業普及指導センター他 7月26日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の経過】 7月29日～8月28日 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し】 8月～10月 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は7月30日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コンヒカリ」及び「こいしんき」を中心とする品種構成となっている。「コンヒカリ」及び「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、新之助品種「新之助」(晩生種)の作付拡大を推奨している。</p>
<p>富 山</p> <p>(生育)</p> <p>【7月18日現在】(生育状況)</p> <p>・「コンヒカリ」 平年に比べ、草丈、葉色、葉齢は並、茎数はやや少なくなっている。幼穂形成期は、平年に比べ1日早い7月10日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年より1日早い7月31日頃と見込まれる。</p> <p>・「てんたかく」 5月3日移植の「てんたかく」の出穂期は、近年より1日早い7月15日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、成熟期は8月19日頃と見込まれる。</p> <p>・「てんこもり」 平年に比べ、草丈、葉数、葉色は並、葉齢は0.2遅れている。幼穂形成期は、平年に比べ1日遅い7月13日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年に比べ1日遅い8月4日頃と見込まれる。</p> <p>・「富富富」 近年に比べ、草丈、葉数、葉色、葉齢は並であった。幼穂形成期は、近年より1日早い7月12日となった。今後、気温が平年並に推移すると、出穂期は近年より1日早い8月3日頃と見込まれる。</p> <p>(富山県 7月18日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の経過】 7月29日～8月28日 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し】 8月～10月 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は7月30日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コンヒカリ」を中心とする品種構成となっているものの、近年高温急激でも品質が安定している「てんたかく」及び「てんこもり」の葉のトップランドに位置づけられる「富富富」が増加傾向にある。</p>
<p>石 川</p> <p>(生育)</p> <p>【6月8日現在】</p> <p>(草丈)</p> <p>・「コンヒカリ」：平年比85～134% (県平均107%、加賀：104%、能登：110%) 平年並～長く、前年に比べてやや長い。</p> <p>・「ゆめみづほ」：平年比20～121% (県平均108%、加賀：105%、能登：112%) 平年に比べてやや長い～長く、前年に比べて長い。</p> <p>・「ひやくまん殿」：近年比89%～129% (県平均108%、加賀：112%、能登：103%) 近年並～長く、前年に比べてやや長い～長い。</p> <p>(茎数)</p> <p>・「コンヒカリ」：平年比76～159% (県平均104%、加賀：105%、能登101%) 平年及び前年並。</p> <p>・「ゆめみづほ」：平年比84～166% (県平均111%、加賀：104%、能登126%) 平年及び前年に比べて並～多い。</p> <p>・「ひやくまん殿」：近年比72～109% (県平均114%、加賀：105%、能登129%) 近年及び前年に比べて並～多い。</p> <p>(葉齢)</p> <p>・葉齢遅延は、「コンヒカリ」は平年及び前年並。「ゆめみづほ」も平年及び前年並。「ひやくまん殿」は近年及び前年と比べ2日程度早い。</p> <p>(石川県農林総合センター農業試験場 6月9日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の経過】 7月29日～8月28日 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し】 8月～10月 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は7月30日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「ゆめみづほ」及び「ひやくまん殿」を中心とする品種構成である。「ゆめみづほ」が増加傾向にある。</p>
<p>福 井</p> <p>(生育)</p> <p>【7月12日調査】</p> <p>「ハナエサゼン」</p> <p>・出穂期は平年より3日早いところが多く、早い地域で7月1日頃、黒全体では7月12～16日となる見込み。</p> <p>「いちほまれ」「コンヒカリ」</p> <p>・農業試験場の移植後の幼穂形成期は平年並となった。</p> <p>(水田農業レベルアップ委員会技術普及部 7月14日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の経過】 7月29日～8月28日 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し】 8月～10月 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は7月30日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コンヒカリ」及び「ハナエサゼン」を中心とする品種構成である。なお、「新品種である「いちほまれ」が増加傾向にある。</p>
<p>長 野</p> <p>(生育)</p> <p>【標高1017m原村の原村試験地における水稲生育状況 移植後50日(きりりん、ゆめしなの、あきたこまち)】</p> <p>・移植後50日の生育は引き続き継続前進傾向である。「きりりん」では、止葉(第11～12葉)抽出が終了している。幼穂形成期は「きりりん」で平年より3日早く、「ゆめしなの」、「あきたこまち」で平年並となっている。</p> <p>(長野県農業試験場 7月19日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の経過】 7月29日～8月28日 関東甲信越地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し】 8月～10月 関東甲信越地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁)</p> <p>関東甲信越地方は7月30日頃からかなりの高温。 (気象庁)</p>	<p>・「コンヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成である。近年、高温急激に推移した「みずかがみ」の作付が推進されている。</p>
<p>滋 賀</p> <p>(生育)</p> <p>【水稲作況調査(7月10日時点)による】</p> <p>・作況調査(5月10日移植)では、「みずかがみ」、「コンヒカリ」とも、草丈は平年並、茎数は平年より少ない。葉色は「みずかがみ」で平年並、「コンヒカリ」では平年よりやや濃い。</p> <p>・幼穂形成期は、「みずかがみ」では6月30日と平年より1日遅く、「コンヒカリ」では7月5日と平年より2日遅く、出穂期は「みずかがみ」では7月23日頃と遅い見込み。</p> <p>・県内ほ場では、移植日やほ場条件による生育に差は見られるものの、概ね平年並に幼穂形成期を迎えている。 (滋賀県農業技術振興センター 7月13日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の経過】 7月29日～8月28日 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し】 8月～10月 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>近畿地方は7月30日頃からかなりの高温。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>向こう1か月もちらみの発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コンヒカリ」、「あきたこまち」、「ゆめしなの」及び「日本晴」を中心とする品種構成である。近年、高温急激に推移した「みずかがみ」の作付が推進されている。</p>
<p>兵 庫</p> <p>(生育)</p> <p>【6月28日時点】</p> <p>(県 北)「コンヒカリ」の草丈は平年並、茎数はかなり多く、葉齢の遅延はやや早い。遅延では、草丈は平年並、茎数はかなり多く、葉齢の遅延はやや早い。</p> <p>(県北以外) 草丈の遅延は平年並～やや早く、草丈は平年並。</p> <p>(兵庫県 7月5日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の経過】 7月29日～8月28日 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し】 8月～10月 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>近畿地方は7月30日頃からかなりの高温。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>向こう1か月もちらみの発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コンヒカリ」「ヒノヒカリ」「あきたこまち」及び「日本晴」を中心とする品種構成である。「あきたこまち」の作付拡大を推奨している。</p>
<p>岡 山</p> <p>(生育)</p> <p>・イネの茎数は、概ね平年並である。</p> <p>(岡山県 7月26日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の経過】 7月29日～8月28日 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し】 8月～10月 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>中国地方は7月30日頃からかなりの高温。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガともちらみの発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「アケボノ」、「きぬむすめ」、「コンヒカリ」「あきたこまち」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。</p>
<p>広 島</p> <p>(生育)</p> <p>【7月21日調査】広島総合技術研究所農業技術センター一帯(東広島市八本松町)</p> <p>()内は平年並</p> <p>・「コンヒカリ」(密植) 草丈：84.4(85.1)cm、茎数：539(435)本/m²、葉色(SPAD値)38.2(35.2)、葉齢11.7(12.2)</p> <p>・「あきたまん」(密植) 草丈：71.9(73.6)cm、茎数：579(468)本/m²、葉色(SPAD値)36.5(34.2)、葉齢12.5(12.5)</p> <p>・「ヒノヒカリ」(密植) 草丈：71.4(73.1)cm、茎数：541(457)本/m²、葉色(SPAD値)36.0(32.5)、葉齢10.9(11.8)</p> <p>・「恵の季節」(普通植) 草丈：76.7cm、茎数：367本/m²、葉色(SPAD値)34.0、葉齢12.6</p> <p>・「あきたさかり」(普通植) 草丈：72.6cm、茎数：468本/m²、葉色(SPAD値)40.8、葉齢12.5</p> <p>(広島総合技術研究所農業技術センター 7月25日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の経過】 7月29日～8月28日 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し】 8月～10月 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>中国地方は7月30日頃からかなりの高温。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガともちらみの発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コンヒカリ」、「あきたさかり」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。</p>

(生育状況等)			
愛 媛	<p>【2023年度「ひめの涙」の生育状況（7月10日現在）】</p> <p>(5月22日移植 7月10日調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草丈(cm) 61.4、茎数(本/m) 362、一株あたり茎数(本/株) 23.9、葉色(SPAD値) 32.8 <p>(生育)</p> <p>(6月1日移植 7月10日調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草丈(cm) 54.3、茎数(本/m) 323、一株あたり茎数(本/株) 21.3、葉色(SPAD値) 37.5 <p>(6月14日移植 7月7日調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草丈(cm) 38.4、茎数(本/m) 241、一株あたり茎数(本/株) 15.9、葉色(SPAD値) 40.3 <p>(愛媛県農林水産研究所 7月13日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の要通し 7月29日～8月28日】</p> <p>四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の要通し 8月～10月】</p> <p>四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多い見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>四国地方は8月1日頃からかなりの高温。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月7月29日～8月28日、斑点米カメムシ、稲葉枯病、いもち病、こま葉枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成は大きな変化はない。「ヒノヒカリ」から「にこまる」への品種変更が定着してきている。
高 知	<p>【6月報】</p> <p>(早稲種) 穂初期～出穂期、時期、並、生育、並</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月に入って雨の日が多いが、草丈はほぼ平年並、分けつ数は平年並～やや多く、出穂時期は穂早生品種、「コシヒカリ」ともほぼ平年並で推移している。 <p>(普通期) 分けつ期、時期、並、生育、並</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田植えはほぼ終了し、順調に生育しているが、一部で移植後も重いもちの影響を受けているほ場が見られる。 <p>(高知県病害虫防除所 7月4日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の要通し 7月29日～8月28日】</p> <p>四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の要通し 8月～10月】</p> <p>四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多い見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>四国地方は8月1日頃からかなりの高温。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月7月29日～8月28日、斑点米カメムシ、稲葉枯病、いもち病、こま葉枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早稲種は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。
福 岡	<p>【7月14日調査】(農林業総合試験場における生育状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「夢つくし」の草丈は、平年より11%長く、茎数が23%少なかった。「元気づくし」および「ヒノヒカリ」では、平年と比べ、草丈は平年並～15%長く、茎数は16～43%少なかった。「実りつくし」では、前8年と比べ、草丈は3%長く、茎数は38%少なかった。 ・各品種とも主稈葉数は平年並～平年より0.6葉ほど少なく、生育は平年並～やや遅れている。 <p>(生育) (福岡県・福岡県米品質改善協会 7月19日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の要通し 7月29日～8月28日】</p> <p>九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の要通し 8月～10月】</p> <p>九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多い見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p> <p>九州北部地方は7月30日頃からかなりの高温。(気象庁福岡管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元気づくし」を中心とする品種構成であるが、「元気づくし」が増減傾向となっている。一方で「実りつくし」の拡大を推奨している。
熊 本		<p>【向こう1か月の天候の要通し 7月29日～8月28日】</p> <p>九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の要通し 8月～10月】</p> <p>九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多い見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p> <p>九州北部地方は7月30日頃からかなりの高温。(気象庁福岡管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「森のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。「くまさんの穂き」はリーディング品種として取組いが年々拡大している。
宮 崎	<p>【作物の生育状況(7月中旬)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通期水稲は分けつ期。(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 7月26日付) <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の要通し 7月29日～8月28日】</p> <p>九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の要通し 8月～10月】</p> <p>九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「みき388」への作付誘導が進められている。
鹿 児 島		<p>【向こう1か月の天候の要通し 7月29日～8月28日】</p> <p>九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の要通し 8月～10月】</p> <p>九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早稲種は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。早稲種では、収量水準の高い「なつほのか」への移行が急速に進んでいる。

注1：熊本及び地方自治体、出先機関等がホームページで公表している資料を掲載欄情報欄で取り組み。
注2：生育状況等(栽培指導等公表資料の抜粋)については令和6年7月27日 16時30分時点での取り組み。
注3：実勢調査は赤字で示した。

引用資料:

農作物の生育状況 7月1日現在(北海道農政部 7月21日)、
農作物生育状況 7月1日現在(北海道空知総合振興局 7月21日)、
農作物生育状況 7月1日現在(北海道石狩振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道後志総合振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道胆振総合振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道日高振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道渡島総合振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道檜山振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道上川総合振興局 7月21日)、
農作物生育状況調査の概要 7月1日現在(北海道留萌振興局 7月21日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月1日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月21日)、
稲作生産情報第6号(青森県 7月21日)、
令和5年度水稲生育定期調査結果No.5(岩手県農業研究センター 7月26日)、
仙台稲作情報2023(第6号)(宮城県仙台農業改良普及センター 7月21日)、
令和5年稲作情報第6号(宮城県亶理農業改良普及センター 7月21日)、
稲作情報(Vol.7)(宮城県石巻農業改良普及センター 7月24日)、
令和5年産気仙沼・南三陸稲作情報第7号(宮城県気仙沼農業改良普及センター 7月21日)
令和5年産仙南稲作情報(第5号)(宮城県大河原農業改良普及センター 7月25日)、
令和5年産美里地区の稲作情報第7号(宮城県美里農業改良普及センター 7月21日)、
栗原の稲作通信令和5年第7号(宮城県栗原農業改良普及センター 7月24日)、
生育状況報告(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 7月27日閲覧)、
当面の技術対策(8月)(山形県農林水産部 7月25日)、
主要な農作物の生育情報令和5年度第4号(福島県農林水産部農業振興課 7月10日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月25日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月19日)、
水稲生育診断速報No.5(栃木県農政部経営技術課 7月21日)、
水稲の生育と当面の対策第5報(千葉県農林水産部 7月26日)、
水稲の生育と今後の管理対策(第7号)(新潟県農林水産部 7月26日)、
令和2年産水稲生育速報No.6(新発田農業普及指導センター 7月20日)、
FAX稲作情報No.9(三条農業普及指導センター 7月25日)、
コシヒカリ生育情報第7号(魚沼農業普及指導センター 7月25日)、
南魚沼産コシヒカリ生育速報No.7(7月25日調査)(南魚沼農業普及指導センター 7月26日)、
十日町地域稲作生育速報(令和5年7月26日)(十日町農業普及指導センターほか 7月26日)、
TACS情報第8号(富山県 7月18日)、
令和5年産水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-3号)(石川県農林総合研究センター 6月9日)、
稲作情報No.11(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月14日)、
水稲高標高試験圃の生育状況(令和5年)(長野県農業試験場 7月19日)、
令和5年度水稲生育診断情報No.3(滋賀県農業技術振興センター 7月13日)、
令和5年度兵庫県農業気象技術情報No.3(7月情報)(兵庫県農林水産部 7月5日)、
令和5年度病害虫発生予報第5号(岡山県 7月26日)、
水稲生育状況(令和5年7月21日現在)(広島県立総合技術研究所農業技術センター 7月25日)、
2023年産「ひめの凛」の生育状況(7月10日現在)(愛媛県農林水産研究所 7月13日)、
病害虫発生予察情報について 令和5年度病害虫発生予察6月月報(高知県病害虫防除所 7月4日)、
福岡県米麦大豆生産改善速報第2号(福岡県、福岡県米麦品質改善協会 7月19日)、
令和5年度病害虫発生予報第4号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 7月26日)、

北海道地方こう1か月の天候の見通し(7月27日札幌管区气象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(7月27日仙台管区气象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(7月27日気象庁)、
北陸地方こう1か月の天候の見通し(7月27日新潟地方气象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(7月27日大阪管区气象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(7月27日広島地方气象台)、
四国地方こう1か月の天候の見通し(7月27日高松地方气象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(7月27日福岡管区气象台)、
九州南部・奄美地方こう1か月の天候の見通し(7月27日鹿児島地方气象台)、

北海道地方こう3か月の天候の見通し(7月25日札幌管区气象台)、東北地方こう3か月の天候の見通し(7月25日仙台管区气象台)、関東甲信地方こう3か月の天候の見通し(7月25日気象庁)、
北陸地方こう3か月の天候の見通し(7月25日新潟地方气象台)、近畿地方こう3か月の天候の見通し(7月25日大阪管区气象台)、中国地方こう3か月の天候の見通し(7月25日広島地方气象台)、
四国地方こう3か月の天候の見通し(7月25日高松地方气象台)、九州北部地方こう3か月の天候の見通し(7月25日福岡管区气象台)、
九州南部・奄美地方こう3か月の天候の見通し(7月25日鹿児島地方气象台)、

早期天候情報(7月24日14時30分 気象庁)、
エルニーニョ監視速報(No.370)について(気象庁 7月10日)、

「令和5年度病害虫発生予報第5号(水稲特集)」(農林水産省 7月26日)、
令和5年産水稲の10a当たり平均収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月15日)